



夏外白字猫摺

三

雜  
川  
三

13  
2704  
3





見外けんがい白宇溜璃卷之三目録びやくうりゅうりきまき

朝比奈王あそびなみま

足強車あしつよぐるま

焰魔廳えんまのてい

地獄ぢごく

三瀬川みつせがわ

2704  
13  
8

三十六十一五  
坪の植着

見外白宇榴櫛卷之三

朝比奈王



極樂座の勘定場へ玄園げんゑんのあさびやのくしゆくしゆを  
とれど何ぞとみよハ地獄ぢごくよりれ仗朝比奈王とぞとぞを  
しハ娑婆しやばを執とりて三島さんまのともひハ四方しやうほうと云  
今ハ十五じふご小唯こゑを朝比奈王あしひなと云と云けりさきり伏ふし  
と云ハ。佳主人よししゆじんのわじよ。東連佛とうれんぶつハ何極系なげんけいへ引揚ひきあせられ  
るハ慈あはれして佳主人よししゆじんのあまの極系なげんけいハ何極系なげんけいの故ゆゑ  
たれよもつて。來速らいそく仏ぶつと云ハ。事ことなるも  
死し自死じじの亡なるハ肉にくと云ハ。死し自死じじの亡なるハ肉にくと云ハ。死し自死じじの亡なるハ肉にくと云ハ。

ても地獄へさうぢりなよ。倭伝とてあてどほし  
めいやだんがけと大おまて。尤大人気の伝教が  
ごりしきく白く新。結よ今が朝臣宗王泰くれ  
ハびる要要え中振大振うりれ八系あといの途中  
そそ死無殺の死傳伝みごり小佳生海をせし  
大主すな基げごんま一ゆと。あまけ言の  
後さねまの使ありのとにうらまをぞり  
依く却定場をく取く吟味けり色を教有ひ八系  
と引接をれハは伝伝の中にも朝鮮伝と記  
これいまま不切有れ伝及日本類とて  
中振大振うりれ八系系系二系通と中めさ大振くと

せと志うきてあひく。伝死しと朝鮮伝の伝  
あまごくと。陰流の今系系系伝とあまけす  
ひしゆ子月ける罪おしせさるも。そ伝うら  
引接活れが。修く吟味をれが。まの  
ていあうく。中めさ大くこと。よま  
さふもの所席おたり。あまの

足強車

法殿く佛連まかりう入るう。撲抄あまども中く  
ゆを抄うれど。えおれ流とあごもてくぞれ





白卷之三

四



白卷之三

四

えりきう。ゆへにうらうらと後とてかたきけりし  
車の火燧出るふきいざみぢり神りうも(わ)と。鬼ども  
もとあびく。ころころととがしも燃せりし  
てりねぞと。朝比奈素王うらう付まば鬼どもうらう  
さんへ極系い水色ふく。淫淫の雨故車もえりしや  
祢うらうも付まばとてあかへるありのたぬり  
てりしもへま。朝比奈素王をまうらうくサババ  
くと。留しきえればいまうらうと。極くハなぬらむ  
なふおふらうども。少づくもく。びまうくしとてまけ  
は。朝比奈素王うらうく。びき罪人の極系い水色い  
と

といろくもははくせども。わらうのやうなもたに車  
びりきう。さんともあく極くまを二番こよらうゆと  
らうらあもが。りあをよは車は才よ重ぬまは  
朝比奈素王も車にまはりけ。汗あふ成く善極極小  
ま。志づくも。息は体とせり。鬼たて大行は八月の白  
雨あつ。石佛とみおとく。丹色縁青もくげす  
く。いやくも。薩小あたせらる。やかうらう二張りま  
ま。さうし。さんごうらう。体とせり。いうらぬたきし神  
ら。冠わら。極く。ま。う。又う。れ。る。観音  
大士も。金う。き。う。車ふゆ。れ。ま。ゆ。く。ま。り。ま。あ

みだぬいしうらまの魂をいふものち由あるあや  
まの祿乃正神ありて車れよ光を教らるるいび  
ましく神たま朝比奈王うらむいそそくう観音めが  
をめりきりま車れぬ人ぬくしるほがゆるるあやむ  
さそくふく死事ぬきうれのまたたきうらむえ  
とらあむいつまはたえらう居られらううらむ  
あはや目体ひたぬいぬを親交とていあや  
とらあ朝比奈王も鬼とお後とあういお外居  
まハ先にあはせられえ又いあてし青とあてり罪  
人とせりあやしく睡まばまたほもいざやわん

あまのふしあは朝比奈王とむくことかきうらあくや  
ましく鬼もとたう何や叫あれ鬼た  
目体とせりく又うらゆとくうらむさ

焰魔聽

神なく名んまあよむらまづく車舎よ和也朝  
比奈王たまれあふ出儀らうされらういあは推奈  
小遠りあうらん言あうとありい故あてぬていあ  
まあありいいはへま中り時よ大玉うらむてん  
ぢやく先い席いありくはあむらん色に朝比奈  
玉取のまも中鬼人といあふし地い引振さう奥



異うらとまらめアヲゆらむい飛人いびし羅をよ  
 るいしつみるめ眼は角はもろろつちんこらう  
 な旅ぢやぶそとどあいつく司録神性面うわ  
 らうし司録神性面と病く病まひんあつた  
 性は口あがして力くかみんたとつ大主大に忠  
 てきそくめく不吟味をあははくくみるふ上上  
 生よ生まるところ相也そまじく鏡と作の下より  
 鏡はるく人とい立行観るま地とあは鏡は向いあ  
 仁義礼智信の文字ありくく念をいづるま大主初  
 一丸の面くあつと慈すむりこ大主横は打たない

もく今う只今我念我より我の心不及と權も  
 名はいもいほかた五帝兼備の人るんが養子なり  
 せんそれくくあつてくバはくより女中宛あましく立  
 おんて湯の袋米にゆせんあましくいせあ人  
 とかりはるあつて言大士も大なるあその徳遠い善候  
 とたどゆか比しくあはく入あはれはる十面  
 觀世音中しくあは増るあましくあは中一見下  
 地獄  
 押地獄のあつとあは地獄く増るくあは地獄候  
 凡國性糸会我の味くあはるあは極楽とらへん

白くぬきとるんまのてしハおさうより後りハつ明は終る  
証方取まの火車は石の道も非なる日小あつて昼  
東のよからぬく幸込と打のきてを請に役人ありて  
獄舎へうらふとく翌日大土の箱へ引出し更こ小羅  
とよかつ又細工場は物せりなる金へく熟をの熟る  
たく後ハ禁らして老いこくおわく本本枕の本おえ  
お中ノ所よは活のちあらぬとて洋さたを夕七の時  
かよハち女と仕舞はあして鬼どもハ身裁くこ小樹  
のうけくたよもよぬは活にして作事子活衣を三ノ人の  
こいお常にしるるおさやぐ思ろくくもぬ。後法

屋よ角のまたらがごとくをこて以天の物鬼といふの  
さうは川及びびぐ一太道のけのおあつてさう雷と云ふ  
小形死と形の中有迷らるるおともと抱へ抱系らるる  
入用のは道をうんせある及まきで今ぐ草金虎のおうり  
の形能とて。内よハ幽女は者よ火よ耐あむさういさう  
をこゆお傍小幽女れとくおさうさうの茶いせしおをし  
又此獄のをまよる域のちらぐとて殺す本わう。不産の地  
獄はとて殺めく女ごのう。能をぐ竹の根と懸あひ地獄  
とてまきうにあらわいて居るまきららるるお水神とて  
元あよをむ移んじさうに極殺せく。くららるるおとく







紅糸ベニイト死シにレ糸イトをレ細ホソくシてレ坊ボウにレ郭カクとシてレ髪カミはレ極キョク糸イトをレ毎ツネニ  
月ツキにレ遊ユウぶツらんノ坊ボウをレ遊ユウぶツくシてレ中ナカにレ遊ユウぶツくシてレ衣エ領リョウ樹ジュをレ遊ユウぶツくシてレ後ノチ  
らニあリてレ草クサのレあリとシてレおノ木キ枕マクラをレ遊ユウぶツくシてレ三ミ三ミ三ミ  
遠トホ川カハのレ後ノチにレ三ミ三ミ三ミのレあリはレ深コホシのレ洞ツツミ窟クツのレあリ。  
はレ二ニ三ミ三ミ三ミのレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
三ミ三ミ三ミとシてレ極キョク糸イト海ウミ邊ヘをレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
如ナドしテ今イマのレ橋ハシはレ極キョク糸イト海ウミ邊ヘのレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
てレ後ノチにレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
念佛ニハツをレ目メとシてレ面オモテ通ツ宛アツ傳ツへレびツ中ナカにレ遊ユウぶツくシてレ後ノチ  
にレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。

中ナカにレ遊ユウぶツくシてレ後ノチにレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
いハあリとシてレ門カド徒タ家カのレ三ミ三ミ三ミとシてレ後ノチにレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
しテあリとシてレ念佛ニハツをレ目メとシてレ面オモテ通ツ宛アツ傳ツへレびツ中ナカにレ遊ユウぶツくシてレ後ノチ  
にレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
あリとシてレ念佛ニハツをレ目メとシてレ面オモテ通ツ宛アツ傳ツへレびツ中ナカにレ遊ユウぶツくシてレ後ノチ  
にレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
十ジュウ年ネンをレ毎ツネニにレ遊ユウぶツくシてレ後ノチにレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
あリとシてレ念佛ニハツをレ目メとシてレ面オモテ通ツ宛アツ傳ツへレびツ中ナカにレ遊ユウぶツくシてレ後ノチ  
にレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。  
あリとシてレ念佛ニハツをレ目メとシてレ面オモテ通ツ宛アツ傳ツへレびツ中ナカにレ遊ユウぶツくシてレ後ノチ  
にレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリはレ三ミ三ミ三ミのレあリ。

みくらく(性)の級(つ)けさうち(や)けある(麻)色  
仏(ぶ)つを(佛)は(ある)を(た)ぶ(れ)を(極)ま(い)ら(だ)ま(り)の(身)入(佛)  
石(い)わ(る)れ(ど)も(こ)う(は)ぐ(り)に(力)が(中)に(自)身(を)は(い)  
P(さ)ず(れ)は(よ)う(く)を(る)ん(と)神(か)み(と)あり(て)ま(る)い  
海(う)み(を)そ(か)し(ち)の(色)く(が)ち(や)く(ご)う(ゆ)く(の)ら(ん)と  
め(る)に(甲)し(あ)り(な)よ(二)途(ち)川(が)あ(る)を(忍)は(と)し(て)亡(い)ぬ  
八(は)つ(又)年(ねん)位(ぐ)ら(に)漸(し)ま(は)つ(て)十(じゅう)八(はち)遍(べん)  
色(いろ)あ(つ)と(情)を(は)け(し)か(げ)は(し)が(地)に(と)十(じゅう)八(はち)遍(べん)念(ねん)は  
ゆ(く)虫(む)ぐ(り)を(れ)を(不)せん(ぶ)く(ら)に(地)事(じ)に(け)す(ま)  
ト(と)なり(し)切(き)三(さん)水(すい)川(が)乃(の)橋(はし)の(も)あ(る)を(そ)く(ら)に(ま)る。

麻(あ)相(さう)を(子)死(し)ぐ(ま)ま(よ)く(あ)し(な)ま(る)に(首)く(つ)く  
し(す)の(か)ん(の)ら(ふ)し(あ)ら(づ)き(皆)こ(ら)う(て)ワ(の)老(ら)  
と(解)う(ぬ)死(し)と(れ)を(ら)う(と)う(内)事(じ)を(併)棄(あ)り(て)復(ふ)  
の(と)な(り)と(七)念(ねん)乃(の)親(おや)母(はは)を(海)と(し)て(漸)極(ごく)系(けい)  
と(あ)る(路)を(ま)り(た)を(光)明(くわうめい)と(す)る(と)す(る)〜

見(み)外(がい)白(はく)字(じ)猫(ねこ)橋(はし)を(ら)く(三)次(じ)





